

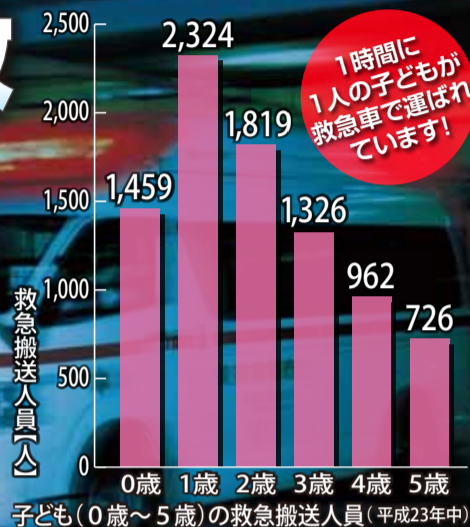


## STOP!子どもの事故

家庭内などの身の回りで起きる事故により、東京消防庁管内で、5歳以下の子どもが年間約8,600人救急車で運ばれています。

本号では、特に5歳以下の子どもに多く発生している「窒息・誤飲」、そして生命を脅かす可能性の高い「おぼれる」事故についてお伝えします。

子どもの事故は、周囲の大人たちが注意を払い、対策を立てることで予防できることが多々あります。事故防止のポイントを知り、子どもを事故から守りましょう。



### 子どもの事故<1>

## 「窒息・誤飲」で毎年千人の子どもが救急搬送!



東京消防庁管内で、窒息や誤飲の事故により、毎年1,000人前後の子ども(0歳~5歳)が救急搬送されています。特に0歳児と1歳児で多く発生しています。

子どもは、生後6ヵ月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られ、トイレトーパーの芯(39mm)を通る大きさのものなら、口の中に入れてしまい飲み込む恐れがあります。

### 危険性が高いものは何かを知っておきましょう。

窒息や誤飲するものは、食品が最も多く、玩具、タバコ、薬品と続いています。なかでもボタン電池や灯油、キャンドル・オイルは、体の組織を壊したり肺炎を起こす危険があります。日頃から家の中の危険をチェックしましょう。

### 救急搬送された事故例

#### 食パンをつまらせ...

自宅で子どもが食パンを食べている最中につまらせ、白目をむき苦しんでいたため、救急要請しました。(1歳男児・中等症)



#### タバコの入った灰皿の水を...

灰皿に入っていた水を1歳の男の子が飲んでしまったようだったため救急要請しました。(1歳男児・中等症)



#### ボタン電池の誤飲

自宅で、ボタン電池2個を飲み込んだため救急要請しました。(0歳男児・中等症)



傷病の程度について  
 中等症: 生命に危険はないが、入院の必要があるもの  
 重症: 生命に危険があるもの  
 重篤: 生命の危険が切迫しているもの

### 事故防止のポイント

#### ❖ 食べ物は年齢に応じた大きさや形状にして食べさせる。

成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る、つぶすなどして食べさせましょう。また、食事中は大きな声で呼ぶ等、子どもをびっくりさせるようなことはやめましょう。歩きながらや寝ながら食べさせることもやめましょう。

#### ❖ 部屋の整理整頓を心掛ける。

子どもがゴミや玩具などを飲み込まないように、日頃から部屋の整理整頓を心掛けましょう。

#### ❖ 薬、電池、タバコなどは、子どもの目に触れない場所にしておく。

家の中は、子どもの目の高さで危険がないかチェックしましょう。



ご注意ください!  
 電池の誤飲の多くはボタン電池です。交換した後等のボタン電池は、子どもの手の届く場所に置かないようにしましょう。



窒息・誤飲が疑われるときは、すぐに救急車を呼ぶか#7119(救急相談センター)へ!

あまごい



子どもを日常生活の事故から守る!